CODE 海外災害援助市民センター
2020年度　事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

＊2017年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2022年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008年	2021年度末
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011年	2021年度末
	4	新型コロナウイルス感染症（中国・新型肺炎）救援プロジェクト	2020年	2021年度末
●2020年度終了予定プロジェクト	5	インドネシア・ロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波	2018年	2020年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者はのべ550世帯（2020年3月時点）。
実施内容	●ぶどう畑再生支援事業 ＊これまでの経緯 1. 現地の状況 　2003年から上記の地域でコーポラティブシューラ（ぶどう生産者協同組合）を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への小規模融資をスタートした。融資を受けた世帯から返済してもらった資金を、新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、のべ 550 世帯が融資を受けた（2021年3月末時点）。カウンターパートであるNGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援してきた。 　2007年から2009年の3年間はJICA草の根技術協力事業（地域提案型）に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、2010 年頃から主要な市場であったパキスタンへの輸出が閉ざされ、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと

	CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。 　この 10 年でミールバチャコット地域に帰還した住民も多く、人口は増えている。本来この地域には 5000 世帯あるが、約 2000 世帯はカブール市の郊外に住み、またパキスタンやイランに出稼ぎに行っている人も少なくない。 　現在、年間 50t のレーズンが組合に加盟している農家によってつくられているが、1/3～1/4(10t～15t)が有機栽培で作られている。 近年は、天日干しからレーズンハウス(貯蔵庫)で作るようになってきているが、ハウスは高額で多くの人は購入できない。 通常、生のぶどうを収穫後すぐに売り、余ったものをレーズンにするが、生は 14kg＝120 アフガニ(２＄)と非常に価格が安く、レーズンは 1kg＝１＄と高くなる。 ほとんどの農家は、100 アフガニ(1.5＄)から 500 アフガニ(7.5＄)ほどの少額を組合に返済しているが、2016 年度、組合は 50000 アフガニ(750＄)を回収し、新たな 10 世帯に各 5000 アフガニ(75＄)を貸し出している。2017 年度から 180 世帯が返済できていない状況が起きている。 　また、販路であったパキスタンとの国境は依然として閉鎖されており、物資の 95%を外国に依存するアフガニスタンは、国内で物資不足のため価格高騰を引き起こし、市場に大きな影響を及ぼしている。 　2017 年 6 月に長年 CODE のカウンターパートとして奔走していたルトフ・ラフマンさんが交通事故で逝去された。その後は、ご子息の Fardin さんが引き継ぎ、レーズン輸出をサポートしていただいている。 　2019 年度後半から 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で Fardin さんもミールバチャコットに行くことができない状況にあった。 2. ミールバチャコット産有機レーズンの輸入・販売の状況 　2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」(熊本市)の関係者とつながり、ミールバチャコット産の有機干しぶどう(レーズン)を日本で商品化することとなり、2013 年 12 月に 20kg のレーズンの輸入を開始し、2014 年 3 月から 1 袋 100g の真空パック(550 円)の販売を開始した。 　近年、レーズンの原価や輸送費が徐々に上昇してきたことから、2018 年 1 月より販売価格 100g/550 円から 650 円に変更した。また、2017 年度 12 月より 20g/150 円の小さいサイズの販売も開始した。 　　以下がこれまでの輸入・販売実績： 　　　2013 年度　20 kg　(11月輸入スタート) 　　　2014 年度　220 kg　(50 kg×2 回、40 kg×1回、20 kg×4 回) 　　　2015 年度　80 kg　(20 kg×4 回) 　　　2016 年度　80 kg　(20 kg×4 回) 　　　2017 年度　60 kg　(20 kg×3 回) 　　　2018 年度　60 kg　(20 kg×3 回)

	2019 年度　40 kg （20 kg×2 回） 2020 年度　10 kg（1 回） 総計:　570 kg アフガニスタンのレーズンは、味に定評をいただき、規模はまだ小さいが、確実に販売実績を伸ばしてきてきた。2015 年 8 月より個別注文以外の委託販売も始まった。ケペスという東京でフェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社の岡本玲子さんが、毎月 30p～50p（3 kg～5 kg）の定期購入をしてくれているが、2019 年度は注文が減少し、輸入も 2 回、40 kgにとどまった。 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大でレーズン輸入は、1 回 10 kgのみにとどまった。また、販売の方も、コロナの影響でコープこうべ平和の集いやワンワールドフェスティバル for Youth、荒田エコフェスタなどほとんどのイベントが中止またはオンラインになった事によりレーズンの販売が難しくなった。 *主な動き 12/13 コープこうべ「平和を願う集い」でレーズンの委託販売（100g×30 パック） 3.　食と国際協力などでのアフガニスタンの現状を知る機会の提供とレーズン販売 これまでに「れーずんの会」や「食と国際協力」で年 1～2 回、レーズンを使った食を味わいながら、アフガニスタンの状況を発信とレーズン販売の機会を作ってきたが、2019 年度末で食と国際協力は終了し、「○○と国際協力」にリニューアルした。 ＊これまでの食と国際協力（れーずんの会）の開催状況（講師はいずれも村井理事） 第 1 回食と国際協力（れーずんの会 1）　2014/3/28　参加者 18 名 第 2 回食と国際協力（れーずんの会 2）　2014/4/25　参加者 19 名 第 8 回食と国際協力(れーずんの会 3)　2014/10/16　参加者 11 名 第 13 回食と国際協力(れーずんの会 4)　2015/4/16　参加者 9 名 第 18 回食と国際協力(れーずんの会 5)　2015/11/19　参加者 8 名 第 22 回食と国際協力　2016/4/14　参加者 12 名 第 32 回食と国際協力　2017/4/20　参加者 8 名 第 41 回食と国際協力　2018/4/19　参加者 11 名

事業名	1-(2)中国･四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震の被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民

実施内容	＊これまでの経緯 　2008 年の四川大地震直後から CODE はスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添い、被災者との関係を築いてきた。 　その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011 年 6 月に着工、9 月に完成した。 　センターは、森に囲まれた村の中心部（4 組）にあり、駐車スペースなど総面積約 1000 平米、築面積約 380 平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築された。中国の伝統木造様式である三合院（3 棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン）で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持っている。 　2011 年 3 月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金 2 万 8000 元（約 36 万円）が届いた。 　2011 年 9 月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事（当時）らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。 　その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽（中国式アグリツーリズム）」として村の祭りや政府や村民の会議の場として活用してきた。 　2012 年 3 月には、金沢大学との協働で光明村の被災者 3 名を日本に招き、能登半島地震（2007）や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。 　2013 年 2 月には CODE10 周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震における CODE との活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10 周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。 　2013 年 9 月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史（中国社会科学院）を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約 20 名ほどの観光客が来ており、少しずつではあるが、センターの運営も軌道に乗ってきていたが、村長が職を辞した事や道路整備、出稼ぎ住民の多さなどの理由から、未だ安定した状態とは言えない。 　2014 年より、今後の日中の災害救援における民間の連携を深めるために両国の NGO やボランティアが共に学び合う場を企画し、2015 年 3 月、6 月に「日中 NGO・ボランティア研修交流事業」を開始した。3 月の第 1 回は日本の学生 6 名が四川の被災地を訪問し、日本と中国の絆の象徴として光明村で桜の木を記念植樹した。また、6 月には第 2 回として四川の NGO 関係者を日本に招聘し、日本の学生と共に神戸、中越を訪問、視察し、専門家による講義を受け、今後の災害救援において連携を深める事ができた。 　2016 年は、第 3 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、日本の若者 6 名が四川省を訪れ、被災地の視察、被災者との交流、NGO との学び合いを行った。同年は、元

	CODEボランティアの岸本くるみさんにご協力いただき防災教育を通じてNGOや社会的企業との交流を行い、現地のNGOは日本の防災教育の教材に非常に関心を示している。 2017年度は、これまで3回の日中NGO・ボランティア研修交流事業によって、2017年度6月に「中日減災・防災国際交流事業」（以下）を実施し、中国の学校関係者やNGOスタッフ23名を招へいし、神戸で防災教育に関する研修を行うに至った。 また、2018年3月には第4回日中NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、神戸女子大学、関西学院大学、神戸大学、愛媛大学など十代の学生を中心に四川の被災地を訪問し、防災教育を行う雅安市興賢小学校での防災教育の交流を行った。また、四川省防災・減災教育館では、日中での防災教育の研修について議論を交わす事もできた。 2018年3月22日からは、未来基金フィールドワーク「食による村おこし」の企画で神戸大学の学生4名が、四川省の被災地を訪れ、食や文化を学び、光明村の農家楽運営を共に考えた。その中で、村のひとりの女性の素食（ビーガン・菜食）などを使った農家楽の特色にするなど新たな可能性なども見えてきた。また、2018年は、四川地震から10周年ということで大阪大学や兵庫県立大学、龍谷大学などの専門家の視察のアテンドも行った。また、震災直後に被災地でボランティアを行った日本人、中国人たちと光明村で交流会を開催した。 2019年度は、現地のNGO備災センターの張国遠さんや大阪大学渥美教授らと共に6月に成都市で「中日安全技術研修」を開催し、約25名の研修生が日本と中国の災害復興や学校防災などを学んだ。また、阪神・淡路大震災25周年という事でNHK「しあわせ運べるように－神戸が生んだ奇跡の歌－」の撮影で、第5回日中NGOボラティア研修交流事業に参加した3名（成安有希理事、原田梨央さん、柳瀬彩花さん）と張国遠さん（NGO備災センター）が、四川を再訪し、光明村の子どもたちが通う香泉小学校で防災教育の交流を行うことができた。 また、9月には台湾集集地震（1999年）の20周年で、台湾、四川、KOBEの三者交流を実施することができた。台北の国立政治大学で開催された国際シンポジウム「複合災害の協力におけるガバナンス」に張国遠さん、渥美教授、CODE 吉椿が参加し、NGOと政治について議論した。その後、台中の埔里県の曁南大学で開催された国際シンポジウムにも張さんは登壇し、四川での取り組みを紹介や南投県桃米地区の復興の視察などを行った。 2020年1月には「世界災害語り継ぎフォーラム」にCODEのカウンターパートのエコ・プラウォトさん（インドネシア）と張国遠さん（中国四川）をお招きし、CODE 寺子屋特別編を開催し、共に学び合う場を設けた。毎年3月頃に実施している日中NGOボランティア研修交流事業は、湖北省武漢市から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で実施を延期することとした。 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックで、四川省への渡航は不可能になり、プロジェクトは実質中断状態となったが、新たに新型コロナウイルス感染症の支援として、四川のカウンターパートである張国遠さん（NGO 備災センター/新安世紀教育安全科技研究院）たちと共に湖北省武漢支援を開始した。＊1-(5)参照

事業名	1-(3)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中

実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	岩手県大槌、釜石などの被災者
実施内容	CODE は、東日本大災害発生後、いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011 年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011 年 4 月 1 日から半年間同 NGO にスタッフ二人を出向させた。また、2012 年 3 月末には、金沢大学と連携し、中国四川省から被災者 3 名、カウンターパート 1 名を招聘し、東日本の被災地の訪問と交流を行い、帰国前日には神戸で CODE 関係者などと交流会を行った。 2013 年 2 月には 10 周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。 2013 年、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至らなかった。 2019 年度も東日本の被災地の厳しい状況を被災地NGO協働センターと共有し、インドネシアの津波被災地などに東日本の現状を伝え、海外の被災地と東北をつなぐ役割を担ってきた。 2020 年度も上記の通り被災地 NGO 協働センターと情報共有をしてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、同 NGO も被災地へ出向くことが難しい状況となった。

◎終了予定プロジェクト

事業名	1-(4) インドネシア救援プロジェクト （ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波）
実施日時	2018 年 7 月 29 日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峡（ジャワ島西部）
受益対象者の範囲及び予定人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約 670 名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約 100 名 スンダ海峡（ジャワ島バンテン州）の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	2018 年度にインドネシアのロンボク島、スラウェシ島、スンダ海峡（ジャワ島）で立て続けに起きた地震や津波に対して、CODE は、カウンターパートであるエコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）を通じて小規模ではあるが、コミュニティセンター建設や木造建築のデザイン提供などの支援を行ってきた。だが、平成 30 年 7 月豪雨災害（西日本豪雨）と時期が重なった事もあり、寄付はそれほど集まらなかった。2018 年度末で、上記 3 つの救援で約 190 万円（内、コープこうべハート基金がロンボク、スラウェシに各 50 万円、計 100 万円を拠出）、そして貝原俊民賞副賞（30 万円）、毎日新聞子ども救援金（20 万円）という状況であった。 2020 年度、東南アジアで新型コロナウイルス感染症の感染者が最多となったインドネシアでは、現地カウンターパートも行動の制限やコロナ対応に追われ、各プロジェクトの実施

	が難しくなった。各プロジェクトの進捗状況は以下の通り。 **＊「ロンボク島地震」** 発生日：2018 年 7 月 29 日、8 月 5 日、8 月 19 日 震源地：西ヌサトゥンガラ州都マタラムの北東 規　模：M6.4（7/29）、M6.9（8/5）、M6.9（8/19） 被　害：死者 555 名　損壊家屋 7 万 4000 棟　（インドネシア国家防災庁発表） ●CODE の動きと救援プロジェクト 2006 年以来連携しているエコ・プラウォトさんや北茂紀さん（北建築構造事務所）などの建築の専門家にご協力いただき、2018 年 10 月にスタッフ上野らを派遣し、現地調査を行った。その結果、北部のジェングラン村リアス地区で住民組織「パトゥ・アジェ」と連携し、エコさんを通じて木造家屋のデザインを提供し、ワークショップを開催することとなった。2020 年 1 月に来日したエコさんと上野が協議し、現地の木造住宅のワークショップについて議論したが、2020 年に入り、現地政府がコンクリートと鉄筋での再建方針を出し、木造での再建が難しい状況になった。また、現在も依然として新型コロナウイルス感染症の深刻な状況でエコさんたちも動けない状況である。 【第 1 次派遣】 日　時：2018 年 10 月 29 日～11 月 5 日 派遣者：上野智彦、増島智子、北茂紀さん、エコ・プラウォトさん（ジョグジャカルタ）、リンダ・オクタビアさん（ジョグジャカルタ） **＊「スラウェシ島地震・津波」** 発生日：2018 年 9 月 28 日 被災地：中スラウェシ州都パルの北約 80km 規　模：M7.5 被　害：死者 2090 名　行方不明 680 名 損壊家屋 6 万 7310 棟　（インドネシア国家防災庁発表） ●CODE の動きと救援プロジェクト 先述のエコ・プラウォトさんにスラウェシ島の建築家の Rachmat さんを紹介していただいた。彼らは、インドネシア建築家協会などと連携して資金を集め、伝統木造建築を活かした仮設住宅の建設を被災地の 6 か所で行っていた。CODE は、下記 2 度の現地派遣で Rachmat さんらと協議を経て、Sigi 県の Langaleso 村という被災地で、子どもたちが集うコミュニティスペースを伝統木造建築「Tambi または Bantaya」で建設するプロジェクトを実施することとなった。2019 年度には、Langeleso 村でコミュニティスペースの建設が始まったが、2020 年初めより新型コロナウイルス感染症の感染拡大で建設が中断した。 【第 1 次派遣】 日　時：2018 年 11 月 7 日～12 日 派遣者：吉椿雅道

	【第2次派遣】 日　　時:2109年1月22日～26日 派遣者:吉椿雅道 **＊「スンダ海峡火山・津波」** 発生日:2018年12月22日 被災地:ジャワ島西部バンテン州、スマトラ島南部ランプン州 規　模:アナク・クラカタウ火山島の噴火による島の3分の1の大量の土砂が山体崩壊によって海面に流れおちたことで、津波が発生した。 被　害:死者426名　行方不明者29名　負傷者7202名 （インドネシア国家防災庁発表） ●CODEの動きと救援プロジェクト スラウェシ島同様にエコ・プラウォトさんに紹介いただいたインドネシア建築家協会のMadcahyoさんらと共に2019年2月に被災地であるジャワ島西部バンテン州を調査した。日本も同様の災害に見舞われる可能性もあることから学び合いの提案をした。 2019年度は中川監事を通じて火山の専門家とインドネシアの専門家との学び合いの場を提供することで現地と調整してきたが、現在、Madcahyoさんとコンタクトが取れない状況が続いている。エコさんによると、現地政府とMadcahyoさんらの関係が悪化したことが原因ではないかとの事である。現在、エコさんを通じてMadcahyoさんにコンタクトを取ってもらっている。 【第1次派遣】 日　　時:2019年1月26日～30日 派遣者:吉椿雅道

事業名	1-(5)新型コロナウイルス感染症（中国・新型肺炎）救援プロジェクト
実施日時	2020年2月4日～継続中
実施場所	中国武漢市、その他の国と地域
受益対象者の範囲及び予定人数	武漢市民や各国のカウンターパートが支援対象者
実施内容	●これまでの経緯と動き 1. 中国・武漢支援 四川大地震以降、連携している四川の張国遠さん（NGO 備災センター、新安世紀教育安全科技研究院）たちが、湖北省武漢市で発生したといわれる新型コロナウイルス感染症の感染拡大への支援を2月に開始し、CODEや渥美公秀教授（大阪大学）に協力要請があったことからCODEも救援を立ち上げた。武漢市が封鎖されていることから、張さんたちはSNSを活用したオンラインボランティアの救援ネットワークを設立し、現地の病院への物資提供や医療スタッフの派遣、高齢者やホームレス、障がい者などへ物資提供、買い物サ

	ービス、病院搬送、心のケアなどの支援を展開してきた。 　3 月からは、張さんたち NGO と渥美教授、CODE が連携して、国際アライアンス（IACCR）を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど 14 の国と地域で民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場をこれまで 16 回開催し、CODE は IACCR 事務局の運営をサポートした。武漢のオンラインボランティアや国際アライアンスを日本に積極的に発信する中で東京在住の後藤源太さんと出会い、彼は自宅のマンションでマスクゆずり合い BOX を設置し、身近な支え合いを実現した。 　また、CODE が組織理事を務める関西 NGO 協議会でも、新型コロナウイルス感染症という世界の共通課題に立ち向かう NGO/NPO を支援すべく共同ファンド「みんなおんなじ空の下」を設立し、国内外の現場で活動する NGO/NPO に総額約 700 万円の資金を提供した。 　その他、宮本副代表理事の発案で、「世界のステイホームから」を 5 回開催し、中国や台湾のコロナ禍の状況やステイホーム下での学生たちの想いや取り組みを共有する機会を提供した。 　2020 年 8 月、堀之内理事より職場である田中産業（株）の SDGs 活動の一環として、ゴアテックスの農作業用のレインウエア 300 着をカウンターパート、Jojo さんを通じてフィリピン・バンタヤン島の 2 つのコミュニティに送った。 2. フィリピン・バンタヤン島、コミュニティキッチン＆ガーデニング支援 　2020 年 9 月、フィリピン台風（2013 年）支援でセブの NGO,FIDEC の Jojo さんから、これまで支援をしてきたセブのバンタヤン島の住民たちが、コロナの影響で観光客の激減によって収入が途絶え、生活困窮に陥っているとの情報があった。相互扶助組織アソシエーションの女性たちがコミュニティ内で困窮している家庭の子どもたちなどに食事の提供をするコミュニティキッチン、そして自ら野菜を育てるガーデニングのプロジェクトを提案し、CODE はそれを支援するために 10 月から 2 か月間募金キャンペーンを実施し、約 46 万円（2 団体、74 名）が集まった。 3. 近畿ろうきんとのコラボ企画 　2020 年 11 月より近畿ろうきんとのコラボ企画で「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害/気候変動」を 3 回シリーズで開催した。人権や気候変動などの多分野の NGO の方や NGO にかかわる若者たちを講師に、のべ 172 名の方にオンラインでご参加いただいた。　＊4-(5)を参照 ＊新型コロナウイルス感染症支援に関する動き 4/3　新型コロナの国際アライアンス（IACCR）第 2 回会議に参加（吉椿、上野、立部） 4/10　新型コロナの国際アライアンス（IACCR）第 3 回会議で報告（エコ・プラウォトさん、吉椿、上野、立部） 4/14　関西 NGO 協議会加盟団体の新型コロナ情報共有会打ち合わせ（吉椿） 4/16　関西 NGO 協議会加盟団体の新型コロナの情報共有会で報告（吉椿） 4/17　国際アライアンス「IACCR」第 4 回に参加（吉椿、上野、立部）

	4/27　IACCR スタッフオンライン会議（吉椿） 4/30 国際アライアンス「IACCR」第5回に参加（吉椿、立部） 大阪大学院生「コロナと差別」企画のミーティング（吉椿） 5/13 JICA 関西市民参加協力課職員にコロナ支援のレクチャー（吉椿） 5/15 国際アライアンス「IACCR」第6回に参加（吉椿） 5/23 関西 NGO 協議会総会で新型コロナ支援の講演（吉椿） IACCR スタッフミーティング（吉椿） 5/27 福井大学でコロナ支援の講演（吉椿） 5/29 国際アライアンス「IACCR」第7回に参加（吉椿、上野、立部） レスキューストックヤードにコロナ支援の講義（吉椿） 5/30 ひょうご支え合い基金でコロナ支援の報告（吉椿） 5/31 NHK「明日へつなげよう」に出演 （正井礼子さん、渥美公秀さん、張国遠さん、吉椿） 6/2　CODE 未来基金「世界の STAY HOME から～中国四川大学」に第1回を開催 （室崎代表、宮本副代表、成安理事、吉椿、上野、立部） 6/12 国際アライアンス「IACCR」第8回に参加（吉椿、立部） 6/14 関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」のチャリティーイベントで 講演、ファシリテート（吉椿） 6/16 CODE 未来基金「世界のステイホームから」第2回を開催 （宮本副代表、吉椿、上野、立部、原田さん） 6/20 CODE コロナ支援報告会を開催 （宮本副代表、中川理事、村井理事、西海理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） 6/23 舞子高校でコロナ支援の講義（吉椿） 6/24 国際アライアンス「IACCR」会議（吉椿、立部） 6/28 関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」 チャリティーイベントに登壇（吉椿） 7/2　高石高校で「コロナと災害」講演（吉椿） 7/6　国際アライアンス「IACCR」コアメンバー会議に出席（吉椿） 7/10 国際アライアンス「IACCR」会議に出席（吉椿、立部） 7/12 大阪大学大学院サービスラーニングワークショップ「コロナと差別」 で講演（吉椿） 7/15 国際アライアンス第1回メンバーミーティングに出席（吉椿、立部） 7/25 関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」 チャリティーイベントに登壇（吉椿） 7/29 CODE 未来基金「世界のステイホームから」第3回を開催 （宮本副代表、上野、立部、原田さん） 8/7　国際アライアンス「IACCR」ユースミーティングに出席（吉椿） 8/19 大阪大学サービスラーニング「コロナ禍における若者たちの市民活動」 でコメンテーター（吉椿） 8/21 国際アライアンス「IACCR」会議に出席（吉椿、立部）

	国際アライアンス「IACCR」ユースミーティングで報告（上野） 8/28 国際アライアンス「IACCR」ユースミーティングに出席（上野、立部） 9/3 IACCR 神戸ブランチミーティング（渥美教授、寺本さん、閔さん、吉椿、立部） 9/17 国際アライアンス「IACCR」オンライン会議に参加（上野） 9/23 甲北高校 PTA 会議「世界と学び合う～新型コロナウイルス支援」で講演（吉椿） 10/1～11/30 フィリピン・新型コロナウイルス感染症支援募金キャンペーン 10/10 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 第2回コロナと若者ミーティングを開催（柳瀬さん、吉椿、立部） 11/10 フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム 「コロナ禍における世界との学び合い」で講演（吉椿） 11/13 国際アライアンス「IACCR」KOBE ブランチの勉強会（渥美教授、吉椿、立部） 11/18 大阪大学留学生「IACCR」のヒアリング（吉椿） 11/22 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 第1回コロナと SDGs を開催（三輪敦子さん、村井理事、吉椿、立部） 12/2 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 （ワンフェス Youth）第2回コロナと若者ミーティングを開催 （柳瀬さん、吉椿、立部） 12/18 CODE 未来基金「世界のステイホームから～台湾の事例」第4回を開催 （李フシンさん）（宮本副代表、吉椿、立部） 12/20 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会」 第2回コロナと若者（ワンフェス for Youth ）を開催（柳瀬さん、吉椿、立部） 2021/1/16 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会」 第3回コロナと災害・気候変動を開催 （室崎代表、榛木理事、中川理事、吉椿、立部） 1/21 CODE 未来基金「世界のステイホームから～高校生インターンの経験」 第5回を開催（西村葵さん） （宮本副代表理事、村井理事、西海理事、吉椿、立部） 1/30 近畿弁護士連合会災害対策連続講座 第9回「コロナ禍における災害の知恵」で講演（吉椿） 2/28 大学コンソーシアムひょうご神戸「コロナと防災」で講演（柳瀬さん、吉椿） 3/6 コープこうべ「震災からときを経て～コロナ禍の今、私たちにできること」で講演 （柳瀬さん、吉椿）

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定	数名

人数	
実施内容	2013 年度より吉椿雅道を事務局長として若者の CODE へのかかわり、および事務局体制の充実化を図ってきた。スタッフの上野智彦（30 歳）は、これまでにフィリピン、ネパール、ハイチ、四川の被災地の現場経験を経て、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。対外的にも関西 NGO 協議会等の勉強会や研修などにも積極的に参加してきた。主に未来基金の運営や CODE レター作成などを中心に活動した来たが、2020 年 9 月末で退職をした。 2020 年度後半は、吉椿と立部知保里さん（兵庫県立大学大学院博士課程）の 2 名体制で事務局を運営し、立部さんには、CODE レター編集、震災 26 年企画の運営、会員管理など上野の業務を引き継いでもらっている。また、週 1 回のボランティアとして協力いただいた原田梨央さん（武庫川女子大学 4 年生）は、10 月より長崎大学大学院熱帯医学グローバル専攻に進学することとなった。柳瀬彩花さん（追手門学院大学 3 年生）にもオンラインセミナーや未来基金のボランティアとして協力いただいている。 また、2020 年度は、神港橘高校 3 年生の西本葵さん（18 歳）が、タウンミーティングをきっかけに 2020 年 6 月から 2021 年 1 月まで毎週木曜日に事務所で通年型インターンとして新型コロナの情報収集など事務局業務や災害看護支援機構訪問などを行った。 なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策、休校による育児対応などの理由により、2020 年 4 月中旬より約 1 か月間、在宅ワークに切り替え、スタッフ 1 名が交替で事務所へ勤務する体制をとった。 また、2020 年度は真如苑の助成金を活用して船曳（澤）桃子にご協力いただき、web パージのリニューアルを行った。 その他、スタッフの立部さんが、JaNiss（NGO 安全管理イニシアティブ）の安全研修に 3 日間参加し、海外での危機管理などについて学んだ。 2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で、海外の被災地への渡航も不可能になり、寄付も大幅に減少したことから、今中税理士にもご協力いただき、持続化給付金（200 万円）、家賃給付金（63 万円）を申請し、受給した。 ＊主な動き： 3/30　広報ワーキングでフィーフレットやレターの見直し （岸本理事、堀之内理事、上野、立部） 4/13　CODE4 月度理事会 4/27　コロナ禍に関するワーキングのミーティング開催 （室崎代表、宮本副代表、村井理事、榛木理事、西海理事、岸本、堀之内、頼政さん、吉椿、上野、立部） 5/14　ガイドラインワーキングのミーティング開催 （室崎代表、宮本副代表、村井理事、松田理事、榛木理事、吉椿、上野、立部） 6/13　CODE6 月度理事会・総会 6/22　事務局会議（村井理事、細川、吉椿、上野、立部） 6/25～2021/1/21 神港橘高校インターン（西本葵さん）

	6/29　法務局に法人登記登記簿の提出（吉椿） 7/24　青少年会館登録説明会に出席（上野） 9/14　CODE9月度理事会 9/24　Webミーティング（船曳さん、立部） 9/27　上野智彦送別会（上野、室﨑代表、芹田名誉理事、宮本副代表、中川理事、松田理事、岸本理事、吉椿、立部） 11/26 青少年会館使用説明会に出席（吉椿） 2021/1月　持続化給付金、家賃給付基金の申請と受給 1/7　震災26年企画打ち合わせ（宮本副代表、村井理事、吉椿、立部） 2/1　震災26年企画「ポストコロナに向けて『いま』、1.17とどう向き合うか」を開催（室﨑代表、宮本副代表、村井理事、西海理事、松田理事、中川理事、岸本理事、吉椿、立部） 2/18 震災26年企画「ポストコロナに向けて『いま』、1.17とどう向き合うか」の振り返りの会を開催（室﨑代表、宮本副代表、村井理事、西海理事、松田理事、中川理事、吉椿、立部） JaNiss（NGO安全管理イニシアティブ）安全研修（管理者）に参加（吉椿） 2/19　JaNiss（NGO安全管理イニシアティブ）安全研修（管理者）に参加（吉椿） 2/24　JaNiss（NGO安全管理イニシアティブ）安全研修（スタッフ）に参加（立部） 2/25　JaNiss（NGO安全管理イニシアティブ）安全研修（スタッフ）に参加（立部） 2/26　JaNiss（NGO安全管理イニシアティブ）安全研修（スタッフ）に参加（立部）

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当NGOスタッフはじめ、学生や一般など約15名。
実施内容	2020年度も例年通りに、榛木理事、村井理事の両理事を講師に「NGOことはじめ」を2回開催し、CODEの理念やNGOについて学ぶ場を提供した。 NGOことはじめ2020「コロナ禍・ホストコロナのNGOとは～」 第1回概要編（2020年9月8日）　講師:榛木恵子理事　参加者:12名 第2回実践編（2020年9月30日）　講師:村井雅清理事　参加者:10名

事業名	2-(3) 月イチシリーズ「食と国際協力」→ 「〇〇と国際協力」に変更
実施日時	毎月第3木曜日
実施場所	CODE事務所
受益対象者の	一般

範囲及び予定人数	
実施内容	2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらうと同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していくという目的で開催してきた。 これまでの 7 年間で計 59 回を開催し、のべ 801 名にご参加いただいた。 会のマンネリ化や参加者の減少などの理由により、2019 年度で一旦会を終了し、2020 年度からは「○○と国際協力」という形でリニューアルする事となった。2020 年度はコロナ禍の中で以下の通りオンラインで開催した。 第 1 回「映画と国際協力～台湾人のアイデンティティとは？～」 日　時：2020 年 8 月 20 日 18：30～20：00 開　催：Zoom によるオンライン 語り手：宮本匠さん（CODE 副代表理事） 参加者：14 名 ＊これまで開催された内容や参加者数は以下の通り。 第 1 回　れーずんの会　（CODE）　（2014 年 3 月 28 日）　参加人数：11 名 2014 年度 第 2 回　れーずんの会　（CODE 理事　村井雅清）（2014 年 4 月 25 日）　参加人数：15 名 第 3 回　フィリピンからまなび　（PEPUP 中山迅一さん＋CODE 事務局長　吉椿雅道）（2014 年 5 月 15 日）　参加人数：13 名 第 4 回　インドネシアとつながる（JICA 兵庫デスク　中村彩乃さん＋CODE 理事　村井雅清）（2014 年 6 月 19 日）　参加人数：15 名 第 5 回　食から見る日本とアメリカ（ワールドユースジャパン学生＋CODE スタッフ上野智彦、多田茉莉絵）（2014 年 7 月 15 日）　参加人数：21 名 第 6 回　青海省チベット高原から　（CODE 事務局長　吉椿雅道）（2014 年 8 月 21 日）　参加人数：11 名 第 7 回　ハイチからのたより（シスター須藤＋CODE 事務局長　吉椿雅道）（2014 年 9 月 24 日）　参加人数：11 名 第 8 回　れーずんの会（CODE 理事　村井雅清、多田茉莉絵）（2014 年 10 月 16 日）　参加人数：11 名 第 9 回　イランってどんな国？（在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリさん＋CODE）（2014 年 11 月 20 日）　参加人数：11 名

	第 10 回　台湾とのきずな（京都大学防災研究所　李勇昕さん、宮本匠さん） （2014 年 12 月 18 日）　参加人数:9 名 第 11 回　バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （人と防災未来センター　斉藤容子さん） （2015 年 2 月 19 日）　参加人数:13 名 第 12 回　中国四川の風土と食（CODE 事務局長　吉椿雅道） （2015 年 3 月 19 日）　参加人数:7 名 2015 年度 第 13 回　アフガニスタンからの贈り物～れーずんの会（CODE 理事　村井雅清） （2015 年 4 月 16 日）　参加人数:10 名 第 14 回　カンボジアの子どもたち～アンコールの風～ （SVA カンボジア事務所　ソティア・ロアットさん） （2015 年 6 月 2 日）　参加人数:15 名 第 15 回　スリランカという国～インド洋の島国の生活～ （人と防災未来センター　斉藤容子さん） （2015 年 8 月 20 日）　参加人数: 11 名 第 16 回　ヒマラヤの民シェルパ～ネパール標高 3000m の暮らし （Royal Orchid Treks　ラクパ・シェルパさん） （2015 年 9 月 17 日）　参加人数:18 名 第 17 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2015 年 10 月 15 日）　参加人数:11 名 第 18 回　アフガニスタンからの贈り物～れーずんの会（CODE 理事　村井雅清） （2015 年 11 月 19 日）　参加人数:8 名 第 19 回　フィリピンの食と暮らし～セブ島の「食」から見えること～ （神戸大学 PEPUP　坂元千織さん、CODE スタッフ　上野智彦） （2015 年 12 月 17 日）　参加人数:9 名 第 20 回　エルサルバドルってどこ?どんな国？ （人と防災未来センター　岸本くるみさん） （2016 年 2 月 18 日）　参加人数:12 名 第 21 回　台湾の寄付文化（京都大学防災研究所　李勇昕さん） （2016 年 3 月 17 日）　参加人数:13 名 2016 年度 第 22 回　9.11 から 14 年（CODE 理事　村井雅清） （2016 月 4 月 14 日）　参加人数:17 名 第 23 回　ネパールのハニーハンター（ハニールネッサンス　米川安寿さん） （2016 年 5 月 19 日）　参加人数:15 名 第 24 回　バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 （暮らし研究所ままどころ　斉藤容子さん）

	(2016 年 6 月 16 日)　参加人数:10 名 第 25 回　多様なる雲南～日本のルーツを求めて (CODE 事務局長　吉椿雅道) (2016 年 7 月 21 日)　参加人数:10 名 第 26 回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ (在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん) (2016 年 9 月 15 日)　参加人数:14 名 第 27 回　中国・四川での暮らし～13 年間の生活から見えてきたもの～ (植田麻紀さん、Sim さん夫妻)(2016 年 10 月 21 日)　参加人数:17 名 第 28 回　ネパールの大工、語る。～ネパールの若者から見たネパール～ (ネパール人大工　ニマ・シェルパさん) (2016 年 11 月 10 日)　参加人数:25 名 第 29 回　若者が見たフィリピン　～未来基金のフィールドワークの活動を語る～ (神戸大学　宮津隆太さん)　(2016 年 12 月 15 日)　参加人数:10 名 第 30 回　台湾の寄付文化 (京都大学防災研究所　李勇昕さん) (2017 年 2 月 16 日)　参加人数:9 名 第 31 回　ネパールの村を訪れて(兵庫県立大学　立浪雅美さん) (2017 年 3 月 16 日)　参加人数:13 名 2017 年度 第 32 回　9.11 から 15 年～れ一ずんを食べながらアフガニスタンの「いま」を考える～ (CODE 理事　村井雅清)　(2017 年 4 月 20 日)　参加人数:9 名 第 33 回　ネパールのハニーハンター　～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～ (ハニールネッサンス代表　米川安寿さん) (2017 年 5 月 25 日)　参加人数:8 名 第 34 回　バングラデシュでチャイと出会って～NGO35 年に関わって～ (CODE 理事　榛木恵子)　(2017 年 7 月 13 日)　参加人数:9 名 第 35 回　イランってどんな国　～実はよく知らない?イランの魅力～ (くらし研究所ままどころ代表　斉藤容子さん) (2017 年 9 月 14 日)　参加人数:10 名 第 36 回　フィリピンに出会って　～地元の人の暮らしに触れる～ (兵庫県立大学大学院　立部知保里さん) (2017 年 10 月 19 日)　参加人数:10 名 第 37 回　ネパールの若者と語り合う～シェルパの若者と日本の若者～ (ネパール人大工　ニマ・シェルパさん) (2017 年 11 月 16 日)　参加人数:21 名 第 38 回　僕なりの援助のハナシ～フィリピンを再び訪れて～ (神戸大学 2 年生　羽田和真さん) (2017 年 12 月 21 日)　参加人数:13 名 第 39 回　多様なる雲南～日本のルーツを求めて～ (CODE 事務局　吉椿雅道) (2018 年 2 月 15 日)　参加人数:16 名 第 40 回　一人前ってどれくらい?　～エルサルバドルと日本のごはんから教わったこと

	（人と防災未来センター震災資料専門員　岸本くるみさん） （2018年3月8日）　参加人数:15名 2018年度 第41回　9･11から16年～れーずんを食べながらアフガニスタンの今を考える～ （CODE理事　村井雅清）　（2018年4月19日）　参加人数:12名 第42回　ネパールのハニーハンター　～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～ （草木のはちみつ代表　米川安寿さん） （2018年5月17日）　参加人数:13名 第43回　20年を目前に～台湾の今～ （兵庫県立大学准教授　澤田雅浩さん、被災地NGO協働センター 代表　頼政良太さん）（2018年6月21日）　参加人数:16名 第44回　フィリピンの漁村から～文化人類学の視点から～ （甲南女子大学講師　瀬木詩央さん） （2018年7月19日）　参加人数:12名 第45回　モンゴルの風　～草原の暮らしと今～ （Yagitee　陳阿拉騰桑さん、佳子さん夫妻） （2018年10月18日）　参加人数:23名 第46回　世界で最も島の多い国インドネシアから災害の多い祖国への想い～ （関西社会福祉専門学校　チェリア・プラティウィさん） （2018年11月15日）　参加人数:17名 第47回　セネガルの人々と共に歩んだ2年間の記録～今、伝えたいこと～ （青年海外協力隊OB　柚原里香さん） （2018年12月20日）　参加人数:25名 第48回　チベット高原から～標高4000mの暮らしから見えるもの～ （CODE事務局長　吉椿雅道）（2019年2月22日）　参加人数:11名 第49回　イランってどんな国～イランの人たちと出会って～ （在神戸イラン人夫妻　奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2019年3月14日）　参加人数:17名 2019年度 第50回　ハイチを訪ねて～被災地は今、ハイチ地震から9年 （CODEスタッフ　上野智彦）(2019年4月18日）参加者:13名 第51回　フィリピン「人」の魅力～都会で暮らして、田舎で暮らして～ （CODEインターン　立部知保里）(2019年5月17日)参加者:17名 第52回　パタンジェ村の人々と共に～ネパールの山村から～ （夢広の会、廣本勝治さん、敏美さんご夫妻） （2019年6月14日）参加者:20名 第53回　四川を訪ねて見えたこと～若者たちの視点から～ （関西学院大学職員、CODE理事　成安有希）（2019年7月18日） （武庫川女子大学薬学部3年生　原田梨央さん）　参加者:25名

	第54回 エルサルバドルのラテンな暮らし～わたしがごはんから教わったこと～ （神戸学院大学実習助手、CODE理事 岸本くるみ） （2019年9月26日） 参加者:24名 第55回 2004年スマトラ島沖地震と津波後のスリランカ住宅再建 （神戸大学都市安全研究センター カウマディ・アベウエラさん） （2019年10月25日） 参加者:18名 第56回 メコン河流域の文化と暮らし～中国雲南で暮らしてみて～ （CODE事務局長 吉椿雅道） （2019年11月15日） 参加者:12名 第57回 ネパールから見た日本 （CODE賛助会員 山本健一さん） （2019年12月13日） 参加者:11名 第58回 バクタプルの再開発から学ぶ（クワパエ科大学教授 モハン・パントさん） （2020年2月20日） 参加者:14名 第59回 イランという国 ～メディアからは伝わらない話～ （在神戸イラン人夫妻 奥圭三さん、ナヒド・ミールザッハリリさん） （2020年3月19日） 参加人数:12名 ＊計59回開催 参加者のべ801名

事業名	2-(4) CODE未来基金
実施日時	2014年12月10日～
実施場所	–
受益対象者の範囲及び予定人数	災害NGOで働く若者、または将来的に災害NGOで働く事をめざす若者、若干名。
実施内容	これまでのCODEの事業で3年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額（約1000万円）の資金を活用して、2015年度4月より「CODE未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第1回神戸宣言の採択の日である12月10日に理事会に承認された。 また、2005年度から始まったCODEスタッフへの奨学金制度は、理事会の承認を経て未来基金の項目に統合した。今後、該当者がいれば、未来基金としてその都度、対応していく。 ●「CODE未来基金」の概要 ・主旨：災害救援を主たる目的とするNGOを志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容：以下の3部門 1. インターンシップ・・・将来、CODEなど災害NGOで働きたい若者がCODEで有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODEの支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。

	3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。 ・基金の財源：CODE の過去のプロジェクト費と寄付金を活用する。 CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。 ・寄付について：＊一般寄付 個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円 ＊未来基金サポーター 年会費：1,000 円 ・運営・選考：上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。 選考委員：芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の 4 名と西海恵都子（神戸新聞編集局報道部長）、宮本匠（兵庫県立大学）の 2 名の外部委員から構成される。なお、山添理事は、2018 年度にコープこうべを退職されたことからこの委員を退任した。2019 年からは、委員である西海さん、宮本さんが CODE 理事に就任されたことにより委員を降りることになった。 ●これまでの動き 2014 年 5 月に菊池健さん（社会を動かす研究所、元パナソニック役員）にお知恵を頂き、CSR などに関心の高い企業を数社ご紹介いただいた。5 月末にはスタッフ 2 名（上野、頼政）がグンゼ（株）の CSR 担当者を訪問し、未来基金を運営するにあたって企業側の意見を聴く機会を頂いた。その後も選考委員でもある山添、榛木、松田の 3 名の CODE 理事や企業、学生などの意見を踏まえ、未来基金のしくみ、運営、募集などの検討を重ねてきた。 2016 年度は、榛木理事や村井理事のご協力により事務局ミーティングを 3 回程度行い、寄付やサポーター、参加学生の活用などの議論を重ねてきた。 未来基金のフィールド研修部門は、参加学生も多く、盛り上がりをみせたが、寄付やサポーター会員の獲得に対する動きは鈍かった。2019 年度は、震災 25 年企画として未来基金に参加した若者たちに登壇してもらい、「若者の生き方を語る」を開催した。 ●これまでの実績 下記のように CODE は、これまでに未来基金を通じて、のべ 22 名の若者に被災地のフィールドやインターンで学ぶ場を積極的に提供してきた。 ●これまでの主な動き ＊プレ企画 ・第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成

	CODE の支援する中国四川省を訪問し、復興の現状視察や被災者との交流、現地 NGO との学び合いなどを通して、次世代の NGO を担う若者を発掘する。未来基金から少額の補助を活用した。 日　時：2015 年 3 月 23 日～29 日（7 日間） 場　所：四川大地震（2008 年）の被災地 参加者：小坂めぐみ（神戸市外国語大学 3 年）、北川和真（神戸大学 4 年）、大西佑季（神戸大学 1 年）、成安有希（関西学院大学 3 年）、中山迅一（佛教大大学）上野智彦（立命館大学、CODE スタッフ）の 6 名 ・第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業への助成 中国から 3 名の NGO スタッフを招へいし、神戸や中越の被災地を視察・訪問し、日本の専門家による講義を受けた。未来基金から少額の補助を活用した。 日　時：2015 年 6 月 12 日～21 日（10 日間） 場　所：神戸、中越、金沢など 参加者：張国遠（NGO 備災センター）、高圭滋（四川尚明公益発展研究センター）、羅丹（成都根与芽環境文化交流センター） 成安有希（関西学院大学 4 年）、宮津隆太（神戸大学 2 年）、吉崎唯（神戸大学 2 年）の 3 名の若者が中越、金沢に同行 講　師：山添令子（コープこうべ）、室崎益輝（CODE 副代表理事＊当時）、村井雅清（CODE 理事）、渥美公秀（大阪大学）、稲垣文彦（中越防災安全推進機構）、阿部巧（中越防災安全推進機構）、宮本匠（兵庫県立大学）、田中純一（北陸学院大学）、李妍焱（駒澤大学） ＊第 3 回、第 4 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業（参加者各 6 名）への未来基金からの助成はなし。 ＊フィールドワーク事業 ・第 1 号事業：神戸大学生（アイセック神戸大学委員会）による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。 日　時：2016 年 8 月 10 日～18 日（9 日間） 場　所：フィリピン・セブ島、バンタヤン島 企画者：宮津隆太（神戸大学 2 回生） 参加者：神戸大学生 5 名 （宮津隆太、河村陽菜、佐久間崚平、西本楓、羽田和真） 同行者：上野智彦（CODE スタッフ） テーマ：「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」 内　容：被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。

・第 2 号事業:兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデル村でフィールド研修が行われた。2016 年 9 月 12 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日　時:2017 年 2 月 22 日～3 月 5 日(12 日間)
場　所:ネパール・ソルクンブ郡グデル村
企画者:立浪雅美(兵庫県立大学 4 回生)
参加者:兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の 3 名
　(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)
同行者:吉椿雅道(CODE 事務局長)
テーマ:「Discovery！～未来への可能性を広げよう～」
内　容:辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。

・2016 年度 CODE 未来基金フィールドワーク報告会

未来基金を活用してフィリピンやネパール、中国四川でフィールドワークを行った若者たちが、実体験や学びを語り、次世代の若者に刺激を与える場となった。

日　時:2017 年 3 月 26 日(日)
場　所:こうべまちづくり会館
報告者:フィリピン(宮津隆太、河村陽菜、羽田和真)
　ネパール(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)
　四川(北川和真、今中麻里愛、成安有希)
参加者:27 名

●2017 年度の動き

＊フィールドワーク事業

・第 3 号事業:神戸大学の学生の企画によって CODE の支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017 年 10 月 3 日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日　時:2018 年 3 月 22 日～3 月 30 日(8 日間)
場　所:中国四川省の被災地(光明村など)
企画者:西本楓(神戸大学 2 回生)
参加者:神戸大学 4 名
　(西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香)
同行者:吉椿雅道(CODE 事務局長)
テーマ:「食による村おこし」
内　容:医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。

	＊インターンシップ事業 　2016 年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん（愛媛大学 2 年生）が未来基金インターンシップ第 1 号として申請し、2017 年 8 月 18 日の選考委員会の協議を経て採択された。2017 年 10 月 3 日～2018 年 4 月 1 日までの半年間大学を休学し、CODE のインターンとして共に働いた。主に SNS を活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営などを担っていただいた。未来基金ニュースの「だいき日記」でも発信しているように、6 ヶ月のインターンの経験で高橋さんは、NGO の運営や CODE の理念を学んだだけではなく、NGO で働くことを現実的に考え、将来の進路にも大きな影響を及ぼした。 ＊第 1 回サポーターミーティング 日　時：2017 年 7 月 15 日（土） 場　所：こうべまちづくり会館ホール 内　容：未来基金の特色を再認識し、未来基金で若者が実現したいことや企画を考える場となった。 参加者：19 名 *第 2 回サポーターミーティング 日　時：2018 年 2 月 24 日（日） 場　所：神戸市教育会館 内　容：未来基金のサポーターとはどのようなものかを理解してもらい、参加者と未来基金のかかわり方をグループワークによって見つける事ができ、コアなメンバーの顔ぶれも見えてきた。 参加者：17 名 ＊CODE 未来基金合同報告会 日　時：2018 年 4 月 1 日（日） 場　所：こうべまちづくり会館 報告者：未来基金フィールド研修（四川）や未来基金インターン、日中 NGO・ボランティア研修交流事業に参加した学生 10 名 参加者：40 名（室崎副代表、村上、村井理事も参加） ＊CODE 未来基金報告会 日　時：2019 年 3 月 30 日（土） 場　所：青少年会館多目的ホール 報告者：〇未来基金ネパールフィールド研修参加者、未来基金インターン生 高橋大希さん（愛媛大学 4 年） 〇未来基金フィリピンフィールド研修参加者 羽田和真さん（神戸大学 4 年） 〇日中 NGO・ボランティア研修交流事業参加者

	森口花マティーナ（神戸龍谷高校2年）、山内優（神港橘高校3年）、 柳瀬彩花（屋久島おおぞら高校3年）、西岡かりん（関西学院大学2年）、 原田梨央（武庫川女子大学2年）、成安有希（関西学院大学職員）、 曾　翕如（大阪大学大学院） 参加者：40名（芹田代表、室﨑副代表、村上理事、村井理事も参加） ＊国内研修 11月、被災地NGO協働センターとの連携で平成30年7月豪雨の被災地、広島県坂町にて実施したCODE未来基金国内研修に6名の若者が参加した。仮設住宅での訪問活動や足湯、お茶会を通じて被災者の方々とのコミュニケーションをとり、発災から4カ月が経過した被災者が抱える課題について考える機会となった。 ※本研修は真如苑「Shinjoプロジェクト」の助成を受けて実施した。 ●サポーターの状況： 2015年度：寄付者10名、サポーター3名 2016年度：寄付者21名、サポーター74名） 2017年度：寄付者46名、サポーター95名 2018年度：寄付者50名、サポーター48名 2019年度：寄付者47名、サポーター83名（152口） 2020年度：寄付者40名、サポーター18名 寄付のべ214名、サポーターのべ321名 2015円度末から2016年度初めにかけてNHKの番組に出演したことで大口の寄付があり増額したが、通常時の寄付は少なく、基金の年間運営の収支のバランスが取れていない。上記のように、現状としては寄付、寄付者、サポーターは決して多いとは言えない。今後も報告会や若者が語る場を作っていくことでサポーターや寄付者を増やしていく。 ●2018年度の事業 ＊プログラム募集 2018年度のプログラム募集では、前期フィールドワーク1件が採択されたが、申請者の都合により辞退の申し入れがあった。 ＊国内研修 11月、被災地NGO協働センターとの連携で平成30年7月豪雨の被災地、広島県坂町にて実施したCODE未来基金国内研修に6名の若者が参加した。仮設住宅での訪問活動や足湯、お茶会を通じて被災者の方々とのコミュニケーションをとり、発災から4カ月が経過した被災者が抱える課題について考える機会となった。 ※本研修は真如苑「Shinjoプロジェクト」の助成を受けて実施した。

＊サポーターミーティング・報告会

2018 年 2 月に開催したサポーターミーティングでは参加したサポーターからいくつかの未来基金を盛り上げる提案がされた。2018 年度は若者が主体となりサポーターミーティングでの提案の実施をめざしたが、事務局のサポート不足から、4 月に開催した花見会以外は実現に至らなかった。

3 月末に 2018 年度 CODE 未来基金報告会を開催した。CODE 未来基金に関わる若者やサポーターの他、報告者の関係者、CODE の支援者、社会企業スタッフ、CODE 理事など 32 名が集まり、国内研修や過去の未来基金プログラム参加者の映像での報告、日中 NGO ボランティア研修交流事業（四川大地震救援プロジェクト）の報告を実施した。

・CODE 未来基金報告会を開催

日　時：2019 年 3 月 30 日（土）

場　所：青少年会館多目的ホール

報告者：〇未来基金ネパールフィールド研修参加者、未来基金インターン生
高橋大希さん（愛媛大学 4 年）
〇未来基金フィリピンフィールド研修参加者
羽田和真さん（神戸大学 4 年）
〇日中 NGO・ボランティア研修交流事業参加者
森口花マティーナ（神戸龍谷高校 2 年）、山内優（神港橘高校 3 年）、
柳瀬彩花（屋久島おおぞら高校 3 年）、西岡かりん（関西学院大学 2 年）、
原田梨央（武庫川女子大学 2 年）、成安有希（関西学院大学職員）、
曾　翕如（大阪大学大学院）

参加者：40 名（芹田代表、室﨑副代表、村上理事、村井理事も参加）

●2019 年度の報告

① ボランティアの日

2019 年度の計画では「ボランティアの日」として、若者が CODE の事務所に集まりボランティアを行う日を設定するとしていた。5 月、6 月と CODE のボランティアを行う日を設定し、各回 3、4 人の若者が参加したが、作った募金箱を若者自身が活用するというところまでは至らなかった。未来基金インターンとしていた立部さんとともに魅力ある活動を模索したが、ボランティアが集まるには至らなかった。

② サポーターミーティングと報告会

2019 年の CODE 未来基金報告会、サポーターミーティングに関しては後述の CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年特別企画の開催を優先し、2019 年度は開催しなかった。

③ 阪神・淡路大震災から 25 年を迎えるにあたって

2019 年 10 月から 2020 年 2 月にかけて 5 回に渡り、「CODE 未来基金 阪神・淡路

	大震災25年特別企画　若者の生き方を語る～阪神・淡路大震災25年を前に～」を開催した。CODE 未来基金を活用してきた若者が現在どのように活動しているか、なぜ今の生き方を選んだのかを各回若者を講師に招き、語っていただいた。この企画を通して、CODE 未来基金の周知を広げるとともに、市民活動を社会が支えるという考え、そして「もう一つの生き方」を選ぶことができる環境づくりへのヒントを探ってきた。シリーズでは近畿労働金庫が共催・協賛企業として集客協力や事業費を支援をいただいた。後援企業の一つ神戸新聞には各回の講師に取材を行い、シリーズに連動した連載記事を掲載していただいた。 ○第1回 「お金に依存しない自立した生活をめざして」 （久保陽香さん 「非電化工房」住み込み弟子） 10月27日開催　参加者36名 企画シリーズの第 1 回ということでいろいろと模索しながら進めていく回となった。当日は環境や自給自足というテーマに関心が高い方の来場が多かった。久保さんが非電化工房での生活に至るまでの歩みや弟子入り中の現在の生活について語られた。四川でのフィールドワークでの光明村の循環する暮らしを目の当たりにする中で自給自足について学ぶきっかけを得て、屋久島での生活を経て、現在は非電化工房で農業や建築について学ぶ日々を送っている。 ○第2回 「学生のやりたいを見つける」（羽田和真さん　NPO 法人 The Peace Front） 11月22日開催　参加者22名 第2回は、フィリピンフィールドワークに参加し現在は「The Peace Front」で活躍する羽田和真さんを招き、教育や夢をテーマに語られた。参加人数は少なかったものの、会場とのやり取りを密に行うことができ、日本国内の一極化している教育の評価軸など羽田さんが感じる教育の課題やフィリピンでの学びを深めた。 ○第3回 「コミュニティナースが取り組む地域支援」 （立浪雅美さん 「園田南」地域包括支援センター） 12月22日開催　参加者49名 第3回は、ネパールへのフィールドワークを企画し、尼崎市の「園田南」地域包括支援センターで保健師を務め、コミュニティナースとしても活躍する立浪雅美さんが語り手となった。保健師を目指したきっかけからネパールのフィールドワークでの学びと挫折、現在はコミュニティナースという保健師像を見つけて地域と関わり続けている。 ○第4回 「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」 （西本楓さん　株式会社「BugMo」COO） 1月19日開催　　参加者43名

	西本楓さんはフィリピンフィールドワークに参加し、四川フィールドワークを企画した。その後、株式会社「BugMo」を起業し、現在は昆虫食をテーマにコオロギプロテインバーを製造、販売している。第 4 回では西本さんが食について関心を持つようになったきっかけや 2 度のフィールドワークでは食というテーマとともに人に寄り添うということの大切さを学んだ。取り組む昆虫食の一般認識などについても語るとともに、会場とのやり取りの中ではなぜ昆虫食という方法を選んだのかなどが話題に上がった。 〇第 5 回 「若者の生き方について考える」(金益見さん　神戸学院大学講師) 2 月 9 日開催　　参加者 58 名 最終回となる第 5 回は神戸学院大学の講師、金益見先生を語り手に迎え、金先生の多くの人との出会いのお話や、人生や身近なことを素敵にする方法など若者の生き方の道標となる講演をしていただいた。金先生は若者に対して、「こうあるべき」という答えを出さずに、いろいろな生き方があっていいと述べる中で、若者を後押しする言葉を紹介していただいた。 ④　若者が多く関わる団体とのコラボ企画 「まなびと」代表の中山迅一さんと話し合いを行い、コラボイベント企画するための意見交換を行った。2019 年度後期は CODE 未来基金　阪神・淡路大震災 25 年企画を実施したため、コラボ企画は来年度以降の開催をめざす。 ※「まなびと」…神戸市北野を中心に地域の学びスペースや学童保育を運営している団体。代表の中山さんは日中 NGO ボランティア研修交流や CODE 未来基金イベントにも参加している。スタッフの多くが学生ボランティア。 ⑤　プログラム募集 2019 年度前期募集により、4 月から 9 月までの半年間、立部知保里さん(兵庫県立大学大学院)が CODE インターンとして活動した。立部さんは半年間の間に、NGO ことはじめや食と国際協力などイベントの運営、①のボランティアの日の活動、CODE Letter の作成などを担っていただいた。またフィリピンの救援プロジェクトにも参加し、フィリピン台風支援のフィールドでの大学生のアテンドなども行った。立部さんはインターン期間満了後もアルバイトスタッフとして引き続き CODE の活動に関わっており、未来基金の運営を担っていただいている。 ●2020 年度の報告: ①　若者発信による今後の未来基金の活動 CODE 未来基金のすそ野を広げること、若者発信の主体的な活動を目的として、六甲山でのデイキャンプを開催し、事務局スタッフと学生 5 名が参加した。デイキャンプを通じて、学生同士の交流や関心の共有を図り、今後 CODE 未来基金でやりたいことについて話し合うことができ、農業フィールドワーク(以下③を参照)の実現につながった。

	＊六甲山デイキャンプ 日時：2020 年 11 月 29 日 場所：六甲山（有馬温泉付近の森） 内容：六甲山の歴史、災害を学びながら散策、火起こし体験 参加者：柳瀬彩花（追手門学院大学 2 年生）、金澤諒平（神戸学院大学 2 年生） 原田梨央（武庫川女子大学 4 年生）、山村太一（神戸学院大学 2 年生） 塩井杏奈（大阪大学大学院） 同行者：立部、吉椿 ② 新型コロナウイルス感染症に対する CODE 未来基金の動き オンライン交流「世界のステイホームから」を通じて、海外のコロナ禍の情勢や草の根の取り組みについて学んだ。中国・四川大学（孫英英さんゼミ）との交流を 2 回、台湾からの学びを 1 回（講師：李フシンさん）実施した。四川大学との交流をきっかけとして、柳瀬彩花さん（追手門学院大学 2 年生）が身近な地域でのボランティア活動を始めるという動きもあった。「世界のステイホームから」内で、柳瀬さんの取り組みや、高校生インターン西本葵さん（神港橘高校 3 年生）の活動も共有した。 コロナ禍で困窮している学生の実態を把握するためのアンケートを実施したが、分析が十分にできず、そこからニーズの特定や支援活動の実施には至っていない。 コープこうべからコロナ困窮者向けの米提供の申し出があり、それをきっかけにした支援活動の展開を模索している。学生自身は活動に意欲を持っており、2021 年度、提供先の検討などから活動を開始する。 ③ CODE 未来基金企画（丹波農業フィールドワーク） 丹波市での農業フィールドワーク企画を開始した。2021 年 3 月に実施した第 1 回フィールドワークには学生 3 名が参加した。農業グループ「ムラとマチの奥丹波」を受け入れ先とし、農業体験や現地の有機農業の従事者らとの意見交換を通じて、食の安全や農業の課題などについて学んだ。 日　時：2020 年 3 月 13 日（土）～14 日（日） 場　所：兵庫県丹波市市島（市島ファーム） カウンターパート：ムラとマチの奥丹波（有機農業の農家たち） 内　容：ジャガイモの作付け、黒豆味噌つくり、ヨモギ餅つくり、有機や食の安全などに関するフリ―ディスカッション 参加者：原田梨央（武庫川女子大学 4 年生）、山村太一（神戸学院大学 2 年生）、 柳瀬彩花（追手門学院大学 2 年生） 同行者：立部、吉椿 ④ CODE 未来基金プログラム 上記農業フィールドワークは例外的に公募なしで実施し、2020 年度はプログラムの公募は行わなかった。新型コロナウイルスの影響で依然として海外でのフィールドワーク実施が困難なことから、当面は国内でのフィールドワークを行うこと、そ

	の場合でもこれまでと同様選考委員会での選考を経て企画を立ち上げることを、理事会および芹田選考委員長と事務局との協議の場で確認した。 ＊2020 年度の主な動き 4/24　CODE 未来基金企画ミーティング（宮本副代表、堀之内理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） 5/12 CODE 未来基金企画ミーティング（宮本副代表、堀之内理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） 6/2　「世界の STAY HOME から～中国四川大学」に第 1 回を開催（室崎代表、宮本副代表、成安理事、吉椿、上野、立部） 6/10　世界のステイホームから振り返りミーティング（宮本副代表、岸本理事、堀之内理事、上野、立部） 6/16「世界のステイホームから」第 2 回を開催（宮本副代表、吉椿、上野、立部、原田さん） 6/25　神港橘高校インターンシップ開始 7/10　世界のステイホームから振り返りミーティング（宮本副代表、吉椿、上野、立部） 7/29「世界のステイホームから」第 3 回を開催（宮本副代表、上野、立部、原田さん） 11/29 未来基金デイキャンプを実施（柳瀬さん、原田さん、山村さん、塩井さん、金澤さん吉椿、立部） 12/18「世界のステイホームから～台湾の事例」第 4 回を開催（李フシンさん）（宮本副代表、吉椿、立部） 12/20 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会」第 2 回コロナと若者（ワンフェス for Youth ）を開催（柳瀬さん、吉椿、立部） 1/21　「世界のステイホームから～高校生インターンの経験」第 5 回を開催（西村葵さん）（宮本副代表理事、村井理事、西海理事、吉椿、立部） 2/13　農業フィールドワークで丹波下見（吉椿、立部） 2/28　大学コンソーシアムひょうご神戸「コロナと防災」（登壇：柳瀬彩花さん、吉椿、立部） 3/6　コープこうべ第 3 地区「震災から時を経て～コロナ禍の今、私たちにできること」で講演（吉椿、柳瀬さん、松岡さん） 3/13-14 丹波農業フィールドワークを実施（柳瀬さん、原田さん、山村さん、立部、吉椿） 3/26　CODE 未来基金ミーティング（柳瀬さん、原田さん、山村さん、塩井さん、村井理事、立部、吉椿）

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて

範囲及び予定人数	
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb（UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト）やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトなどで発信してきた。 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症対応の国際アライアンスなどで 3 名の英語翻訳ボランティアの方々に協力をいただいた。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学（社会防災特別講義Ⅱ）
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 30 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣 村井理事が、2007 年から 12 年間担っていた本講義を 2020 年度から吉椿が担う事となり、以下の内容と講師陣とオムニバスで全 15 コマ実施した。 2020 年度の受講生は約 28 名。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で後期の本講義は、半数登学とオンデマンド配信で実施した。 《日程と内容》 9/22（火） 第 1 回 ガイダンス（吉椿） 9/29（火） 第 2 回 CODE 海外災害援助市民センターについて（吉椿） 10/6（火） 第 3 回 日本の災害復興支援活動（頼政良太さん） 10/13（火） 第 4 回 災害とジェンダー（斉藤容子さん） 10/20（火） 第 5 回 寄り添いとつながり（吉椿） 10/27（火） 第 6 回 異文化理解と援助（吉椿） 11/10（火） 第 7 回 海外の復興制度（斉藤容子さん） 11/17（火） 第 8 回 NGO と働き方（立部） 11/24（火） 第 9 回 国内外の復興支援活動（立部） 12/1（火） 第 10 回 平時の地域防災（頼政良太さん） 12/8（火） 第 11 回 災害と貧困（吉椿） 12/15（火） 第 12 回 海外のコミュニティ防災（斉藤容子さん） 12/22（火） 第 13 回 援助の生きがたい被災地支援の方策（吉椿） 1/16（土） 第 14 回 特別講義オンラインセミナー「コロナとこれからの市民社会に向けて 第 3 回コロナと災害・気候変動」参加に振り替え（吉椿） 1/19（火） 第 15 回 被災地 KOBE の経験をコロナ後につなぐ(吉椿）

	その他、社会貢献学入門の講義 2 回へも講師派遣の予定であったが、コロナ禍の影響で講義の開講が中止となった。 ② インターンシップ受け入れ 上記と同様にコロナ禍の影響でインターンシップは中止となった。

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 神戸女子大学
実施日時	5 月から 7 月まで、毎週金曜日第 2 限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生約 20 名
実施内容	2015 年度より神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事、上野が講師として授業を行っている。2020 年度の実施内容は以下の通り。全 10 回をオンラインで実施した。 《日程と内容》 5/8(金) 第 1 回 オリエンテーション:CODE 海外災害援助市民センターの活動を通して「人権」を学ぶ(村井理事) 5/15(金) 第 2 回 ボランティアの歴史:セツルメント運動から災害救援へ (村井理事) 5/22(金) 第 3 回 NGO ともう一つの働き方(上野) 5/29(金) 第 4 回 女性の生活向上支援と自立:教育のもたらす意義(村井理事) 6/5(金) 第 5 回 日本に住む外国人及び地域に住む子どもたちへの教育支援(学びと:中山迅一さん) 6/12(金) 第 6 回 異文化理解と支援:宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する(村井理事) 6/19(金) 第 7 回 CODE の支援を通して、海外の被災地への技術移転を学ぶ(上野) 6/26 (金) 第 8 回 コミュニティ再生から復興へ(村井理事) 7/3(金) 第 9 回 災害と貧困:貧困脱出と災害復興との関係(村井理事) 7/10 (金) 第 10 回 長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン:人為災害と自然災害と戦う人々(村井理事) 7/17(金) 第 11 回 紛争後の支援から 18 年、アフガニスタンの今:平和構築への課題(村井理事) 7/24(金) 第 12 回 保護とエンパワーメント(村井理事) 7/31(金) 第 13 回 誰一人取り残さない世界とは:SDGsの取り組みから学ぶ(上野) 8/7(金) 第 14 回 阪神・淡路大震災から 25 年を振り返って(村井理事)

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 親和女子大学(国際ボランティア論)
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 80 名
実施内容	2020 年度前期(月曜 2 限、全 15 回)より「国際ボランティア論」の講義((担当教員:梶山)を行うことになった。講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、斉藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で実施した。なお、コロナ禍の影響で、すべて課題提出型の講義となった。 《内容》 4/27(月) 第 1 回 総論・ガイダンス(梶山) 5/4(月) 第 2 回 国際協力概論(坂西) 5/11(月) 第 3 回 ボランティアの歴史と意義(吉椿) 5/18(月) 第 4 回 フェアトレードの歴史と現状(坂西) 5/25(月) 第 5 回 難民問題(坂西) 6/1(月) 第 6 回 開発教育と参加型学習(坂西) 6/8(月) 第 7 回 スラム問題(坂西) 6/15(月) 第 8 回 防災と国際協力(斉藤) 6/22(月) 第 9 回 緊急支援、復興支援(斉藤) 6/29 (月) 第 10 回 ジェンダー視点から見る途上国災害(斉藤) 7/6(月) 第 11 回 ボランティアから専門家へ(斉藤) 7/13(月) 第 12 回 NGO とは?(吉椿) 7/20(月) 第 13 回 国際協力と若者(吉椿) 7/27(月) 第 14 回 SDGsと災害(吉椿) 8/3(月) 第 15 回 異文化理解と援助(吉椿)

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 15 名
実施内容	2020 年度より CODE が受託した講義で、前期(火曜 1 限、コロナの影響で全 15 回が 13 回に減少)より「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が行う。ゲストスピーカーとして、上野、頼政、立部、斉藤さんが講義を担った。新型コロナウイルス感染症の影響で、講義はすべてオンライン形式で実施された。

	《内容》 5/12（火） 第 1 回ガイダンスとボランティア総論（吉椿） 5/19（火） 第 2 回災害ボランティアについて（上野） 5/26（火） 第 3 回災害ボランティアセンターについて（頼政） 6/2（火） 第 4 回避難所運営とボランティア（頼政） 6/9（火） 第 5 回復興支援とボランティア（立部） 6/16（火） 第 6 回足湯ボランティアとは（吉椿） 6/23（火） 第 7 回災害ボランティアのネットワーク（頼政） 6/30（火） 第 8 回海外のボランティア①（斉藤） 7/7（火） 第 9 回海外のボランティア②（立部） 7/14（火） 第 10 回海外のボランティア③（吉椿） 7/21（火） 第 11 回ボランティアと働き方（上野） 7/28（火） 第 12 回災害とジェンダー（斉藤） 8/4（火） 第 13 回 NGO とボランティア（吉椿）

事業名	4-(5)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	例年通り、以下の事業などに講師派遣をした。 ①講師派遣 4/16 関西 NGO 協議会加盟団体の新型コロナの情報共有会で報告（吉椿） 5/23 関西 NGO 協議会総会で新型コロナ支援の講演（吉椿） 6/14 関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」の チャリティーイベントで講演、ファシリテート（吉椿） 7/12 大阪大学院生「コロナと差別」の講演（吉椿） 6/28 関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」の チャリティーイベントに登壇（吉椿） 7/12 大阪大学大学院サービスラーニングワークショップ「コロナと差別」 で講演（吉椿） 8/19 大阪大学大学院サービスラーニング「コロナ禍における若者たちの 市民活動」でコメンテーター（吉椿） 2021/1/6 龍谷大学国際 NGO 論「災害支援の現場から考える市民社会」 で講義（吉椿）

事業名	4-(6) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
	① 関西 NGO 協議会の活動への参加 CODE は団体理事として、吉椿が 2017 年度から理事会に出席している。 なお、吉椿は、2019 年度から常任理事、2020 年度からは NGO-JICA 協議会コーディネーターを担っている。また、KANSAI-SDGs市民アジェンダの座長としても、SDGsを通じて関西の多分野の NGO との関係を深めてきた。 ＊総会・理事会への出席 5/15 理事会に出席（吉椿） 5/23 2020 年度定期総会に出席、講演（吉椿） 7/4 常任理事会に出席（吉椿） 7/30 理事会に出席（吉椿） 8/30 常任理事会に出席（吉椿） 11/18 理事会に出席（吉椿） 2/4 理事会に出席（吉椿） 4/8 常任理事会に出席（吉椿） 4/26 理事会に出席（吉椿） ＊NGO-JICA 協議会 NGO 側コーディネーター 前任の栗田佳典さん（テラルネッサンス）が急遽退任することから 2020 年度より吉椿が引き続くこととなった。 6/5 NGO-JICA 協議会第1回コーディネーター会議に出席（吉椿） 6/30 NGO-JICA 協議会第 1 回全体会に出席（吉椿） 8/11 NGO-JICA 協議会第 2 回コーディネーター会議に出席（吉椿） 12/1 NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーター会議に出席（吉椿） 12/4 NGO-JICA 協議会第 2 回コーディネーター会議に出席（吉椿） 2021/2/4 NGO-JICA 協議会第 3 回コーディネーター会議に出席（吉椿） 3/1 NGO-JICA 協議会第 2 回全体会に出席（吉椿） ＊その他 6/14 関西 NGO 協議会 共同ファンドミーティングに出席（吉椿） 8/3 関西 NGO 協議会ミーティングに出席（吉椿） 10/1 Kansai-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿） 10/8 Kansai-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿） 10/30 Kansai-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿）

	12/6　国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会で講演（吉椿） 12/20 ワンワールドフェスティバル for Youth で出展 近畿ろうきん×CODE コラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 （第2回コロナと若者）を開催（柳瀬さん、吉椿、立部） ② コープこうべとの連携 例年通り、コープこうべが実施している地区の勉強会や報告会への講師派遣を継続したが、コロナ禍でイベントなども中止になり、レーズンの販売ができなかった。 *主な動き 8/4　コープこうべ第3地区講演打ち合わせ（吉椿） 11/30 コープこうべ「平和のつどい」動画撮影（本田さん、吉椿） 12/13 コープこうべ「平和を願う集い」でレーズンの委託販売 3/2　コープこうべ（中川理事、本田さん、徳山さん、近藤さん）来所 （村井理事、吉椿、立部） 3/6　コープこうべ第3地区「震災から時を経て～コロナ禍の今、私たちにできること」 で講演（吉椿、柳瀬さん、松岡さん） ③ 近畿ろうきんとの連携 2018年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」（預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ）の寄付先団体として選出され、209,354円の寄付をいただいた 2019年度、CODEは近畿ろうきんに預金口座を開設した。2019年度は、「笑顔プラス」の寄付として249,571円をいただいた。2020年度の笑顔プラスの寄付は228,493円となった。 2020年度は、11月～1月まで近畿ろうきんとのコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害の視点から～」を3回シリーズで開催し、のべ172名の方にご参加いただいた。詳細は以下の通り。その他、近畿ろうきんより依頼のあった講演会は、コロナ禍で中止になった。 ＊第1回「コロナとSDGs」 日　時：2020年11月22日（日）14:00～16:00 スピーカー：三輪敦子さん（関西NGO協議会代表理事、ヒューライツ大阪所長） 参加者：27名 ＊第2回「コロナと若者」　＊ワンフェスユースのプログラムとして実施 日　時：2020年12月20日（日）10:50～12:20 スピーカー：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth ・矢田七海さん（兵庫高校1年生） ・黒田瑞穂さん（京都女子高校3年生） アジア協会アジア友の会（アジアユースサミット） ・長尾美穂さん（関西外国語大学3年生）

	CODE 未来基金 ・金山大輝さん（舞子高校 2 年生） ・柳瀬彩花さん（追手門学院大学 2 年生） 参加者：94 名 ＊第3回「コロナと災害・気候変動」 日　時：2021 年 1 月 16 日（土）14：00～16：00 スピーカー：寺本弘伸さん（日本災害救援ボランティアネットワーク常務理事） 伊与田昌慶さん（気候ネットワーク主任研究員） 参加者：51 名 その他、 6/16 近畿ろうきん神戸支店長　来所 7/17 近畿ろうきん社会貢献預金「笑顔プラス」贈呈式・合同会議（オンライン） に出席（吉椿、上野） 8/17 近畿ろうきん地域共生推進室とコラボ企画の打ち合わせ（吉椿） 11/22 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからのの市民社会に向けて」 第 1 回「コロナと SDGs」の打ち合わせ（三輪さん、吉椿） 11/22 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからのの市民社会に向けて」 第 1 回「コロナと SDGs」を開催（村井理事、吉椿、立部） 12/1 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 第 2 回「コロナと若者」（ワンフェス for Youth ）ミーティング に参加（柳瀬さん、吉椿、立部） 12/17 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 第 2 回「コロナと若者」（ワンフェス for Youth ）ミーティング に参加（柳瀬さん、吉椿、立部） 12/20 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」 第 2 回「コロナと若者」（ワンフェス for Youth ）を開催 （柳瀬さん、吉椿、立部） 1/12 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会」 第 3 回「コロナと災害・気候変動」の打ち合わせ に参加（伊与田さん、寺本さん、吉椿、立部） 1/16 近畿ろうきんコラボ企画「コロナとこれからの市民社会」 第 3 回「コロナと災害・気候変動」を開催 （室崎代表、榛木理事、中川理事、吉椿、立部） ④　北陸学院大学（JICA 草の根技術協力事業） ●これまでの経緯 2013 年 11 月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan（現地名 Yolanda）は、フィリピン中部のレイテ、サマール、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。

CODE は、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014 年 1 月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO 、SPFTC（Southern Partner Fair Trade Center）、FIDEC（Fisherfolk Development Center）や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。

また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ（Association）を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO とより強固な信頼関係を築いてきた。

2014 年 2 月に 150 万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の事務員と吉椿が 3 月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODE に集まった寄付金約 300 万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の 6 つのバランガイ（最小行政単位）にボートを提供し、3 世帯の漁民で 1 つのボートを共有することになった。

提供されるボートの種類、数、共有方法などは、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と各バランガイの住民組織（Association）が協議しながら決めている。

2014 年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作が開始され、2015 年 2 月にはボート 2 艘がバンタヤン島のバランガイ Pooc の被災漁民に提供され始め、これまでに Pooc、Ocoy、Aningan、Victria、Polambato の 5 つの地域に7艘のボートを提供した。残りの 5 艘は、材料不足の影響で遅れていたが、2016 年 12 月にすべてのボートの提供が完了した。その後の住民教育に関しては、北陸学院との JICA 草の根技術協力事業の中で実施していくことになった。

2016 年 12 月より、JICA 草の根技術協力事業（新・草の根協力支援型）のJICA 北陸の案件として、北陸学院大学（田中純一准教授）とのコラボで CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で実施している。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出し、女性の地位向上をめざす。また、地域の防災リーダーの育成をめざし、コミュニティ防災に貢献する。

2017 年度は、田中准教授と共に現地を 2 回訪問し、現地の 2 ヵ所（Pooc、Okoy）のアソシエーションの女性メンバーたちと共にリソースマッピングのワークショップを実施し、地元で使える資源を住民自身が再発見する事ができた。その中から現地の植物フレーバーなどを用いた石鹸作りの試作を行ってきた。

2018 年度は、石鹸作りの質の向上や製作するための環境を少しずつ整えてきた。
また、石鹸販売に向けたパッケージの試作品作りも行われ、アソシエーションのメンバー間での売買も始まっている。他方、防災に関しては、2019 年 2 月に現地訪問した際には、小学校で防災ダッグの紹介や避難者カード作成に向けたワークショップを行った。

2019 年度は、バンタヤン島 2 か所のバランガイで、女性たちのための石鹸の製作と保管スペースの建設をすることとなった。1棟は、パナソニックエナジー労働組合洲本支

	部の西島執行委員長のご尽力で 2019 年末にバランガイ OKOY で完成した。もう 1 棟のバランガイ POOC のスペースは、建設用地の調整つき次第着工に入る予定であったが、新型コロナウイルスの影響で現在、中断している。また、小学校の子どもたち向けの避難カードも、現地のより詳細な地図を落とし込んで完成、現地へ郵送した。 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、バンタヤン島の住民たちは、生活困窮に陥っており、別途救援プロジェクトを立ち上げ、現地のアソシエーションの女性たちの活動を支援している。＊１－(5)参照 ＊2020 年度の主な動き: 10/1～11/30 フィリピン・バンタヤン島、コミュニティキッチン＆ガーデニング支援の募金キャンペーンを実施 ⑤ 若者の団体、教育機関とのネットワーク 2017 年度から未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノヂカラプロジェクト」、「神戸大学 PEPUP」、「まなびと」や「神戸大学救援隊」、「関西学院大学ニューマンサービスセンター」、「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員会」とは、海外インターン送り出し事業局の面談委員を吉椿が担っていることや未来基金四川フィールド研修ではアイセックのメンバーが中国四川省で企画を実施した。 2020 年度は、例年通り舞子高校、葺合高校、神港橘高校、神戸龍谷高校、神戸工科高校などの高校での講演以外にも大阪高石高校や全国中高生防災会議、ワンフェスユースなどで高校生と共に学び合う機会もあった。 ＊教育機関に関する主な動き: 5/27 福井大学でコロナ支援の講演（吉椿） 6/23 舞子高校環境防災科でコロナ支援の講義（吉椿） 6/25 神港橘高校通年型インターンシップ開始（西本葵さん） 7/2 高石高校で「コロナと災害」の講演（吉椿） 7/4 兵庫県立大学「防災と国際協力」で講義（吉椿） 7/12 大阪大学大学院サービスラーニングワークショップ「コロナと差別」で講演（吉椿） 8/27 高校生インターンと災害看護支援機構を訪問（西本葵さん、原田梨央さん、吉椿） 9/23 甲北高校 PTA 会議「世界と学び合う～新型コロナウイルス支援」で講演（吉椿） 10/9 龍谷大学「いのちを守る智恵」で講義（吉椿） 10/19 神港橘高校タウンミーティング「被災地 KOBE から世界へ」で講演（山内優さん、吉椿） 11/9 舞子高校環境防災科「災害と人間」で講演（吉椿） 11/18 大阪大学大学院留学生のアライアンス「IACCR」のヒアリング（吉椿）

	11/19 神戸大学国際人間科学部平和構築論 A「市民によるムスリム地域における災害救援～阪神淡路大震災からの学び～」(村井理事) 12/6 国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会で講演(吉椿) *4-(6)と重複 12/14 大阪大谷大学国際協力論 B で講義(吉椿) 12/20 ワンワールドフェスティバル for Youth で出展 近畿ろうきん×CODE コラボ企画「コロナとこれからの市民社会に向けて」(第 2 回コロナと若者)を開催(柳瀬さん、吉椿、立部) *4-(6)と重複 12/21 関西国際大学「国際防災協力」で講義(吉椿) 12/26 全国中学生高校生防災会議で講演(吉椿) 1/18 神戸工科高校で講義(立部) 1/20 神戸工科高校で講義(立部) 1/21 神戸工科高校で講義(立部) 1/22 神戸工科高校で講義(立部) 1/28 神港橘高校通年型インターンシップ成果発表会に出席(吉椿) 2/8 葺合高校で講義(吉椿) 2/9 葺合高校で講義(吉椿) 2/10 葺合高校で講義(立部) 2/12 葺合高校で講義(立部) 2/25 法政大学法学部弓削ゼミの学生によるインドネシア支援のヒアリング(村井理事) 2/28 大学コンソーシアムひょうご神戸「コロナと防災」で講演(柳瀬さん、吉椿、立部) 3/3 法政大学法学部弓削ゼミの学生によるインドネシア支援のヒアリング(吉椿) 3/16 関西国際大学「ACP INTERNATIONAL VIRTUL BOOTCAMP2021」で講演(吉椿) ⑥ その他の団体との連携 9/17 第 3 回兵庫・国際協力同志の会(HYOMIC)の勉強会「多文化共生と国際協力」に参加(吉富副代表、吉椿、上野、立部) 10/14 震災対策技術展で講演「SDGs と防災」(吉椿) 10/24 ヒューライツ大阪人権かたりば「最後のひとりまで」(吉椿、村井理事) 11/10 フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム「コロナ禍における世界との学び合い」で講演(吉椿) 1/22 西播磨文化会館「ゆうゆう学園」で講演(吉椿) 2/3 第 4 回兵庫・国際協力同志の会(Hyomic)で講演(吉椿)、参加(立部) 2/15 Hapic(JANIC 主催)シンポジウムで登壇(吉椿)

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGOネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築き、その後もフィリピンでの災害の際はコンタクトを取っている。2020年は、コロナ禍での生活困窮者を支援する女性たちの動きをサポートした。 ② 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「NGO備災センター（上厚公益服務センター）」、「四川尚明公益発展研究センター」、「壱基金」などとの連携を、2015年から実施している日中NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた。2020年度は、コロナ禍において、国際アライアンス「IACCR」を先述のNGOと立ち上げ、世界14の国と地域のメンバーと情報を共有している。 ③ 2015年4月に発生したネパール地震の救援活動を通じてGudel Sherpa Communityや同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016年度からは、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会パタンジェ」との関係を構築してきた。 ④ 2006年のインドネシア・ジャワ中部地震以降、連携しているエコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）や彼の建築家のネットワーク（インドネシア建築協会など）を通じて、2010年の青海省地震や2018年のロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波の支援も展開してきた。エコさんも新型コロナ感染症対応の国際アライアンス「IACCR」のメンバーになっている。

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE会員、関係者、一般
実施内容	CODE寺子屋は、これまで主にCODEの理事を講師として開催してきたが、2020年度は災害と関連のある他分野「気候変動」のNGOの方を講師に開催した。 ＊「気候変動と災害～コロナ禍の時代に災害に備えるから～」 日　時：2020年10月22日

	開　催：Zoom によるオンライン 講　師：伊与田昌慶さん（気候ネットワーク主任研究員） 参加者：12 名

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2020 年度（2021 年 3 月 31 日時点）の会員の状況： 正会員　：27（団体 2、 個人 25） 賛助会員：101（団体 0、個人 101）　計：128 名・団体 ＊この数年の会員数の推移： ・2014 年度　92 名・団体 ・2015 年度　120 名・団体 ・2016 年度　147 名・団体 ・2017 年度　125 名・団体 ・2018 年度　109 名・団体 ・2019 年度　144 名・団体 2015 年度から 2016 年度にかけては、ネパール地震や NHK の番組に出演した影響で新規の会員、寄付者が一時的に大幅に増えた。その後も、会員だけではなく、新規寄付者にも年 3 回の CODE レターの送付を行ってきた。だが、新規の会員や継続の会員フォローアップが十分でなかったために賛助会員が少しずつ減少してきた。 2019 年度は、賛助会員の山本健一さんの声掛けで、賛助会員が増加したが、2020 年度は、賛助会員費が未納の方は現時点では賛助会員に含まれていない事で会員が減少したように見える。 また、CODE をこれまで支えていただいた寄付者の方々の高齢化やコロナ禍の影響があったように思われる。一方で未来基金のフィールドワークでお世話になっている丹波の「ムラとマチの奥丹波」の方々も新規で賛助会員になってくれている。 ＊リーフレットのカラー刷新 2019 年度に上野が JICA の研修で学んだノウハウを生かして、新しいリーフレット案をを作成したが、現在、岸本理事にご協力いただき新たなデザインを検討していただいている。

	＊ソーシャルアクションリング（バナー広告） 2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、今年度も年間 15000 円の広告費を得た。 ＊Gochiso（ポイント寄付） Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを 2017 年度から取り入れてきたが、レストランは比較的高級な店が多く、CODE とつながる関係との接点が少ないように思われる。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。 ＊CODE コロナ支援報告会を開催　＊1-(5)と重複 日　時：2020 年 6 月 30 日 開　催：Zoom によるオンライン 参加者：25 名（宮本副代表、中川理事、村井理事、西海理事、岸本理事、吉椿、上野、立部） ＊令和 2 年 7 月豪雨「被災地の現場から」第 1 回（日田）を開催 （被災地 NGO 協働センターとの共催） 日　時：2020 年 7 月 31 日 開　催：Zoom によるオンライン 語り手：松永鎌矢さん（NPO 法人リエラ代表理事） 河井昌猛さん（NPO 法人リエラ副代表理事） 頼政良太さん（被災地 NGO 協働センター代表） 参加者：42 名　（村井理事、吉椿、立部、上野） ＊令和 2 年 7 月豪雨「被災地の現場から」第 2 回（佐賀）を開催 （被災地 NGO 協働センターとの共催） 日　時：2020 年 8 月 6 日 開　催：Zoom によるオンライン 語り手：鈴木隆太さん（一般社団法人おもやい代表理事） 満原早苗さん（一般社団法人おもやい理事/建築プロンティアネット代表） 参加者：29 名　（村井理事、吉椿、立部、上野）

＊令和 2 年 7 月豪雨「被災地の現場から」第 3 回（熊本）を開催
（被災地 NGO 協働センターとの共催）
日　時：2020 年 8 月 30 日
開　催：Zoom によるオンライン
語り手：大谷知宏さん（元地域おこし協力隊、球磨村在住）
谷洋一さん（水俣ほたるの家）
増田勇希さん（コミサポひろしま）
参加者：26 名（村井理事、中川理事、吉椿、立部、上野）

＊震災 26 年企画「ポストコロナに向けて『いま』、1.17 とどう向き合うか」
日　時：2021 年 2 月 1 日
開　催：Zoom によるオンライン
参加者：45 名（室崎代表、宮本副代表、村井理事、西海理事、松田理事、
中川理事、岸本理事、吉椿、立部）

② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。
4/16　関西 NGO 協議会加盟団体の新型コロナの情報共有会で報告（吉椿）　＊4−(5)と重複
5/8　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事）　＊4−(2)と重複
5/11　親和女子大学国際ボランティア論で講義（吉椿）　＊4−(3)と重複
5/12　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（吉椿）　＊4−(4)と重複
5/13　JICA 関西市民参加協力課職員にコロナ支援のレクチャー（吉椿）　＊1−（5）と重複
5/15　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事）　＊4−(2)と重複
5/19　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（上野）　＊4−(4)と重複
5/22　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（上野）　＊4−(2)と重複
5/23　関西 NGO 協議会総会で新型コロナ支援の講演（吉椿）　＊4−(5)と重複
5/26　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（頼政良太さん）　＊4−(4)と重複
5/27　福井大学でコロナ支援の講演（吉椿）　＊4−(6)と重複
5/29　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（村井理事）　＊4−(2)と重複
レスキューストックヤードにコロナ支援の講義（吉椿）　＊1−（5）と重複
5/30　ひょうご支え合い基金でコロナ支援の報告（吉椿）　＊1−（5）と重複
6/2　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（頼政良太さん）　＊4−(4)と重複
6/5　神戸女子大学国際ボランティア活動論で講義（中山迅一さん）　*4−(2)と重複
6/9　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（立部）　＊4−(4)と重複
6/12　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）　＊4−(2)と重複
6/14　関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」のチャリティーイベント
で講演、ファシリテート（吉椿）　*4−(5)と重複
6/16　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義(吉椿）　＊4−(4)と重複
6/19　神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（上野）　＊4−(2)と重複
6/23　神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（頼政良太さん）　＊4−(4)と重複

		舞子高校でコロナ支援の講義（吉椿）	
	6/26	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	6/30	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（頼政良太さん）	＊4−⑷と重複
	7/2	高石高校で「コロナと災害」の講演（吉椿）	
	7/3	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	7/4	兵庫県立大学「防災と国際協力」で講義（吉椿）	
	7/7	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（立部）	＊4−⑷と重複
	7/10	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	7/12	大阪大学大学院サービスラーニングワークショップ「コロナと差別」で講演（吉椿）	＊4−（5）と重複
	7/13	親和女子大学国際ボランティア論で講義（吉椿）	＊4−⑶と重複
	7/14	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑷と重複
	7/17	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	7/20	親和女子大学国際ボランティア論で講義（吉椿）	＊4−⑶と重複
	7/21	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（上野）	＊4−⑷と重複
	7/24	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	7/25	関西 NGO 協議会共同ファンド「みんなおんなじ空の下」チャリティーイベントに登壇（吉椿）	＊4−（5）と重複
	7/27	親和女子大学国際ボランティア論で講義（吉椿）	＊4−⑶と重複
	7/28	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（斉藤容子さん）	＊4−⑷と重複
	7/31	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（上野）	＊4−⑵と重複
	8/3	親和女子大学国際ボランティア論で講義（吉椿）	＊4−⑶と重複
	8/4	神戸学院大学ボランティア論Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑷と重複
	8/7	神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（村井理事）	＊4−⑵と重複
	8/19	大阪大学大学院サービスラーニング「コロナ禍における若者たちの市民活動」でコメンテーター（吉椿）	
	9/22	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑴と重複
	9/23	甲北高校 PTA 会議「世界と学び合う～新型コロナウイルス支援」で講演（吉椿）	
	9/29	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑴と重複
	10/6	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（頼政良太さん）	＊4−⑴と重複
	10/9	龍谷大学「いのちを守る智恵」で講義（吉椿）	
	10/12	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（斉藤容子さん）	＊4−⑴と重複
	10/14	震災対策技術展「SDGs と防災」で講演(吉椿)	
	10/19	神港橘高校タウンミーティング「被災地 KOBE から世界へ」で講演（山内優さん、吉椿）	
	10/20	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑴と重複
	10/24	ヒューライツ大阪人権かたりば「最後のひとりまで」で講演（吉椿、村井理事）	
	10/27	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿）	＊4−⑴と重複
	11/9	舞子高校環境防災科「災害と人間」で講演（吉椿）	
	11/10	神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（斉藤容子さん）	＊4−⑴と重複

	フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム 「コロナ禍における世界との学び合い」で講演（吉椿） 11/17 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（立部） ＊4-(1)と重複 11/19 神戸大学国際人間科学部平和構築論 A「市民によるムスリム地域における災害救援～阪神淡路大震災からの学び～」（村井理事） 11/24 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（立部） ＊4-(1)と重複 12/1 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（頼政良太さん） ＊4-(1)と重複 12/8 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿） ＊4-(1)と重複 12/14 大阪大谷大学国際協力論 B で講義（吉椿） 12/15 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（斉藤容子さん） ＊4-(1)と重複 12/21 関西国際大学「国際防災協力」で講義（吉椿） 12/22 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿） ＊4-(1)と重複 12/26 全国中学生高校生防災会議で講演（吉椿） 1/5 龍谷大学国際 NGO 論で講義（吉椿） ＊4-(5)と重複 1/16 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義（吉椿） ＊4-(1)と重複 1/18 神戸工科高校で講義（立部） 1/19 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿) ＊4-(1)と重複 1/20 神戸工科高校で講義（立部） 1/21 神戸工科高校で講義（立部） 1/22 神戸工科高校で講義（立部） 西播磨文化会館「ゆうゆう学園」で講演（吉椿） 1/28 神港橘高校通年型インターンシップ成果発表会に出席（吉椿） 1/30 近畿弁護士連合会災害対策連続講座 第 9 回「コロナ禍における災害の知恵」で講演（吉椿） 2/3 第 4 回兵庫・国際協力同志の会（Hyomic）で講演（吉椿）、参加（立部） 2/8 葺合高校で講義（吉椿） 2/9 葺合高校で講義（吉椿） 2/10 葺合高校で講義（立部） 2/12 葺合高校で講義（立部） 2/15 Hapic（JANIC 主催）シンポジウムで登壇（吉椿） 2/28 大学コンソーシアムひょうご神戸「コロナと防災」で講演（柳瀬さん、吉椿） 3/6 コープこうべ「震災からときを経て～コロナ禍の今、私たちにできること」で講演（柳瀬さん、吉椿） 3/9 国際協力こころざしトーク（金沢の NGO,TLAG 主催）で講演（吉椿） 3/16 関西国際大学「ACP INTERNATIONAL VIRTUL BOOTCAMP2021」で講演（吉椿）

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信

実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地へ約 1000 通発送 インターネットは不特定多数
実施内容	2013 年度よりインターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、ホームページも 2014 年度にリニューアルした。また、2019 年度より学生ボランティアの原田梨央さんの協力でインスタグラムも開始し、若い世代に向けた発信も試みている。 2020 年度は、真如苑の基盤強化の助成金を活用して、ホームページの刷新を船曳桃子さんのご協力で行った。また、リーフレットの刷新も岸本理事を中心に新しいデザインを現在、検討中。 3/30　広報ワーキングでリーフレットやレターの見直し （岸本理事、堀之内理事、上野、立部） 9/24　Web ミーティング（船曳さん、立部） 10/14 Web ミーティング（船曳さん、立部） 11/26 Web ミーティング（船曳さん、立部） ＊CODE レターの発送状況 2016 年度 9 月発行の Vol.56 より機関誌「CODE レター」をカラー化し、一定の評価を得ている。 2020 年度は、3 回、各 1500 部発行し、以下の通り会員、寄付者に発送した。 Vol.65（2020/4/30 発行）は、920 部を発送 Vol.66（2020/9/25 発行）は、904 部を発送 Vol.67（2021/3/1 発行）は、 934 部を発送 ＊SNS の状況 学生ボランティアの原田梨央さん（10 月から長崎大学大学院）が Twitter やインスタグラムを活用して CODE の活動を若者向けに丁寧に発信してくれたことで各 SNS のフォロワーが増加している。 ・FaceBook CODE の FaceBook に「いいね」をした人は、1540 人（2021 年 6 月初時点）である。 （2015 年度末は 648 人、2016 年度末は 1125 人、2017 年度末 1295 人、 2018 年度末 1407 人、2019 年度末 1484 人） ・FaceBook のフォロワー：1616 人 ・Twitter のフォロワー：512 人（2019 年度度末は 465 人） ・インスタグラムのフォロワー：628 人（2019 年度末は 567 人） その他、ソーシャルアクションリングなどの媒体を通じても CODE の活動を広報してきた。

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011 年 10 月度理事会で CODE AID を立ち上げることを決定したが、2012 年度になり認定 NPO 法人の取得には最低 2 年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10 周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。 なお、理事候補は浅野壽夫氏（神戸学院大学教授）、大森保美氏（株式会社大森工業社長）、林晃史氏（弁護士）、芹田健太郎前 CODE 代表理事（神戸大学名誉教授）の 4 名、監事候補は安井一浩氏（公認会計士・神戸学院大学准教授）である。2013 年度の総会および懇親会「CODE の夕べ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014 年の「CODE の夕べ」にも大森氏はご参加いただいた。 2019 年度より本格的に認定 NPO 法人の取得に向けて動き出し、会計に関しても今中壽一税理士（ひまわり会計事務所）にご協力いただき、これまでの会計処理を修正し、認定取得に向けて、市民活動センター神戸（認定 NPO 法人相談窓口事業を神戸市から受託している団体）や神戸市などと協議を行ってきた。また、榛木理事とも認定 NPO 法人を取得いた 2 団体（テラルネッサンス、アクセス）を訪問し、ヒアリングを行った。] 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で神戸市も認定 NPO 法人に関する業務を一時休止していた。2020 年度は、通常業務の傍ら、認定 NPO 法人取得に向けた寄付者名簿や会員名簿の整理を地道に行ってきた。 また、コロナ禍によって寄付が減少したことから持続化給付金（200 万円）と家賃給付金（63 万円）を受給することができた。 2020 年度の主な動き: 4/28　法務局に法人登記登記簿取得（吉椿） 6/22　会計に関するミーティング（今中税理士、細川、吉椿、上野） 6/29　法務局に法人登記登記簿の提出（吉椿） 11/11　認定取得に関する打ち合わせ（今中税理士、吉椿） 1/13　持続化給付金に関する打ち合わせ（今中税理士、吉椿） 1/21　持続化給付金に関する打ち合わせ（今中税理士、吉椿）